

令和6年門真市教育委員会第7回定例会

開催日時 令和6年7月30日（火）午後2時

開催場所 中町ビル2階 会議室E

議事日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 議案第20号 門真市社会教育委員の委嘱について
- 日程第4 議案第21号 令和7年度小学校使用教科用図書の採択について
- 日程第5 議案第22号 令和7年度中学校使用教科用図書の採択について

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第5まで

出席委員

教育長	八木下 理香子
教育長職務代理者	澤田 京子
委員	高橋 元
委員	松宮 新吾
委員	満永 誠一

事務局出席職員

教育部長	水野 知加子
教育部次長	大倉 善充
教育部総括参事	井手 邦宏
教育部教育総務課長	高岡 華織
教育部学校教育課長	高山 拓也
教育部学校教育課参事	
兼教育センター長	岡田 和樹
市民文化部生涯学習課長	
兼門真市立図書館参事	清水 順子

八木下教育長 開会宣告 午後2時

日程第 1

会議録署名委員の指名

八木下教育長より 高橋 元 委員を指名

日程第 2

会期の決定

本日 1 日と決定

日程第 3

議案第20号 門真市社会教育委員の委嘱について
説明者 清水生涯学習課長

議案書 1 ページから 3 ページをご覧ください。

本議案につきましては、現在の委員の任期満了に伴い、7 名の委員のうち、引き続き 6 名の委員を、新たに 1 名の委員を、社会教育法第15条第 2 項並びに門真市社会教育委員条例第 2 条及び第 3 条の規定に基づき委嘱するものでございます。

今回新たに委嘱いたしますのは、大阪府立門真西高等学校校長の金沢加代氏でございます。

なお、任期は、令和 6 年 8 月 1 日から令和 8 年 7 月 31 日までとしております。

[全委員異議なく、可決]

八木下教育長： 次に、日程第 4、議案第21号「令和 7 年度小学校使用教科用図書の採択について」、続いて日程第 5、議案第22号「令和 7 年度中学校使用教科用図書の採択について」を議題といたしますが、まず初めにお断り申し上げます。あらかじめ松宮委員より英語において、澤田委員より道徳において、教科用図書の執筆に係わっておられるとの申出がありました。そこで、教科書の審議採択時には、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第 6 項の規定に基づき、松宮委員と澤田委員にはご退出をいただきます。

なお、採択が終了した後、再度ご入室いただきます。適正かつ公正な採択を行うため、このように進めたいと考えておりますが、委員のみなさまよろしいでしょうか。

[全委員異議なし]

[松宮委員 澤田委員 退出]

日程第 4

議案第21号 令和7年度小学校使用教科用図書の採択について
説明者 岡田学校教育課参事

議案書の4ページをご覧ください。

令和7年度に門真市立小学校において使用する教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条「義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令の定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」との規定に基づき採択を行うこととなります。同一教科書を採択する期間につきましては、「義務教育諸学校教科用図書の無償措置に関する法律施行令」第15条第1項の規定により、4年間と定められております。

また、令和6年度3月29日文部科学省初等中等教育局長通知、教科書採択における公正確保の徹底等についての「令和6年度の教科書採択における留意事項について」において、小学校用教科書について、令和7年度においては、学校教育法附則第9条第1項の規定により教科書以外の教科用図書を使用する場合を除き、基本的に令和6年度と同一の教科書を採択しなければならないこととされております。

小学校では、5ページに掲載しております一覧の教科用図書が採択されております。

[全委員異議なく、可決]

日程第 5

議案第22号 令和7年度中学校使用教科用図書の採択について

説明者 岡田学校教育課参事

議案書の（６）ページをご覧ください。

令和７年度に門真市立中学校において使用する教科用図書につきましては、同一の教科用図書を採択する期間が令和７年３月31日をもって満了するため、令和７年度に使用する16種目の教科書を、７ページにお示ししております「令和７年度中学校使用教科用図書発行者別一覧」の中から種目ごとに１種類の教科用図書を採択いただくために本案を提出するものです。

これまでの経過をご説明いたします。令和６年第４回定例教育委員会におきまして、教科用図書の調査・研究に伴う門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の設置と選定委員会に対する諮問の決定を賜りました。

これに基づきまして、選定委員会におきましては、教科書見本、本市調査員からの「調査員作成資料」、大阪府教育委員会作成の「教科用図書選定資料」などを参考に、慎重な調査研究と審議を重ね、その結果をまとめて７月24日付けで答申いたしました。

説明は以上でございます。本市中学校使用教科用図書全16種目を決定するため、ご審議の上、ご採択賜りますようお願い申し上げます。

八木下教育長： 今回の、中学校使用教科用図書の選定につきまして、「令和７年度中学校使用教科用図書の適正な選定について」を門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長に諮問し、意見を求めました。

選定委員会からの答申は令和６年７月24日にいただきましたが、その際、選定委員会からは適正かつ公正で開かれた教科書採択を目指して、５月17日、７月３日、７月10日、７月17日の４回にわたり慎重かつ精力的な審議を重ね、選定資料を作成したとの報告をいただいております。

また、これと並行しまして、我々各教育委員の方でも６月中旬から教科書見本を閲覧の上、どの教科書が本市の生徒にとって適切なのか、門真市選定委員会答申及び門真市選定資料、大阪府教育委員会の選定資料、学校からの意見書や教科書センターに寄せられました一般の方々からのご意見なども参考に、採択に係る全ての教科書と充分に照らし合わせながら、調査研究を行ってま

いりました。本日は、これまでの検討内容をもとに審議を行い、本市の生徒にとって適切な教科用図書を採択していきたいと考えております。教科書見本本につきましては各委員の机上にお配りしていますが、これまでの間、これらの資料をもとに充分検討をしまいいりましたので、資料は必要に応じて参考にしながら審議を進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

何かご意見ご質問等がございましたらよろしくお願いいたします。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： それではただ今より、門真市立中学校使用教科用図書の適正かつ公正な採択を行うため慎重に審議を進めていきたいと思っております。審議を行う順番については、選定資料の番号順でよろしいですか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： それでは、ただいまより審議して参ります。

今回の採択にあたっては、1. 内容の程度、2. 組織・配列、3. 人権の取扱い、4. 学び方の工夫、5. 補充的な学習・発展的な学習の5つの観点を中心に調査を進めてきました。

また、門真市が目指す授業改善、いわゆる「子ども主体の学び」と「探究的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現にむけ、GIGA端末も使用しながら、実際に活用できる教科書であるかどうか重要な観点であると考えております。

このような「これからの学び」にしっかりと活用される教科書かつ門真の子どもたちにとってよりよい教科書を選定できるよう、選定資料作成につきましても評価項目の5つのうち、4つめの「学び方の工夫」と、5つめの「補充的な学習・発展的な学習」について特に重点を置き、選定資料もその観点がわかりやすいように作成されております。具体的には、5つの評価項目について、選定委員会における綿密な調査・研究をとおして、特に優れていると評価されたものについては、その項目の番号を選定資料の中に表記しております。審議にあたっては、各委員より、各教科書

会社の評価すべき点についてご発言いただいたのち、全員合意を前提にまとめさせていただきます。

それでは、国語から審議いたします。国語は、4社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

満永委員： 東京書籍につきましては、QRコンテンツがかなり豊富で、生徒の学びに向かう意欲を高め、自ら学習を進めるうえで有効であると感じました。

三省堂につきましては、「話す・聞く」、「書く」、「読む」のそれぞれの分野のつきたい力を社会生活に活かせるよう工夫されていると思いました。これらは、どこの社でもやっているのですが特に三省堂が工夫されていると思いました。

高橋委員： 教育出版につきましては、SDGsに関係する教材があり、構成上もわかりやすいため、課題解決能力の育成に活かしやすいと見ていて思いました。それで言いますと、光村図書も説明的な文章において、情報とSDGsを関連させた教材がありまして、生徒が実社会と向き合う工夫があると感じました。

八木下教育長： どの教科書もQRコンテンツはありますが、ICTの活用という観点で見ると、光村図書の巻末の「ICT活用のヒント」やCBT形式で取り組める「国語の力試し」は、生徒自らが学習の調整をすることができるように工夫されていると感じました。

満永委員： 私も、光村図書について、そのように感じているところです。少し細かいところですが、4社共通して「魯迅（ろじん）」の「故郷」という作品を載せているのですが、4社比べてみると、「魯迅」の中国語読みは「ルーシュン」ですが、読み仮名を書いていたのは、光村図書と教育出版だけだったと思います。それから、「金色（きんいろ）」と書いて「金色（こんじき）」と読む、読み仮名を書いていたのが光村図書と東京書籍であったと思います。学習を進めるうえでの細かな配慮がされているという気がしました。あと、説明的な文章の数ですが、三省堂も多かったですが、光村図書の図書も説明的な文章が多かったです。とりわけ、光村図書の2年生の『クマゼミの増加を探る』というところがあるのですが、まとめと目的展開がしっかりと書いてあり、理解や感情

等の関連もあって、しかも大阪市内にどれぐらいクマゼミがいるのか、平岡神社のあたりにどの位いるかなど大阪とも関連してくるので、こういった内容は非常に環境問題等にも論理的な思考を深めるうえで有効であると感じました。

高橋委員： 配慮という点で言いますと、光村図書は、教科書の全てのページに行数が分かりやすいように記されていましたし、写真も美しいように感じました。

八木下教育長： 評価項目についても光村図書は、4番の学び方の工夫、そして5番の発展的・補充的な学習の項目を含め最も多く挙げられていましたので、これからの学びにも応じたものになっているなど感じています。総合的に見ると、ICTの効果的な活用や生徒の学び方、細かな配慮という点、さらに評価項目についても光村図書の優れた点が多く挙げられていましたので、国語につきましては光村図書ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、国語につきましては、光村図書を採択いたします。

続きまして書写の審議をいたします。書写も、4社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、単元のテーマカラーごとにページが色分けされておりまして、見やすさに配慮されているなど感じました。例えば、6ページから21ページはオレンジ色、24ページから57ページは緑色になっています。

次に、三省堂につきましては、20ページ、21ページに学んだ字形の整え方を、自分自身で実際に書き込んで確認することができるページがあつて学習内容の習得に効果があるのではないかと感じました。

満永委員： 教育出版は、8点ほどコラムがあり、文字について詳しく学ぶことで、書の文化にも興味を持たせることができるような内容になっています。

次に、三省堂ですが、「家康の書状」というところが面白かったと思います。

書写は、どうしても右利きの子を基本に書いてしまうのですが、左利きの生徒たちにどれぐらい配慮されているのかといったところは、全社触れてはいるのですが、とりわけ光村図書は二次元コードの説明もあり、非常に配慮されているという印象を受けました。別冊も使い勝手がよく、使えるなという感じがしました。

高橋委員： 4社ともそれぞれ良さはありますが、先ほど、満永委員もおっしゃいましたが、光村図書には別冊がついており、硬筆を教えるうえで活用しやすそうだと思います。生徒が学んだことをふり返ることができるチェック欄があるのも学びの調整という部分で工夫されている点であると感じました。

満永委員： 光村図書について、ポスターや看板のデザインを考えるなど、発展的な学習や今一番大事な教科横断的な視点も含まれていて、生徒が興味・関心を持ちやすい工夫もされているように感じました。

八木下教育長： 生徒の興味・関心でいうと、光村図書は漫画家や絵本作家の手書き文字を紹介しており、文字を通して人の生き方や考え方を表現するというような内容もあり、私もおもしろいなと感じました。
まとめますと光村図書についてのご意見が多く挙げられていると思いますが、書写につきましては光村図書ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、書写につきましては、光村図書を採択いたします。

続いて社会（地理的分野）の審議をいたします。地理は、4社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

満永委員： 東京書籍につきましては、各単元の導入部分に、小学校社会科で学習した内容を用語や写真でふり返るページが設けられてお

り、小学校から中学校へ学びを円滑に接続できるように工夫されていました。どの社も工夫はされていますが、特に東京書籍が良いと思いました。

一方、教育出版ですが、128ページ、129ページにあるような世界遺産やオリンピック等のどこで開催されているか、今まさに開かれています、そういったトピックが付いていて、地理や地図そのものに興味を持たせるような折り込みの資料が含まれており、生徒にとって親しみやすい内容になっていて良いなと思いました。

帝国書院につきましては、ヨーロッパ州と北米州の地図に同緯度・同面積の日本地図が赤地で掲載されていたと思います。他の社にもありますが帝国書院のものが見やすいなと感じました。

高橋委員： 帝国書院につきましては、巻頭のSDGs 関連情報が、教科書全体を通して「アクティブ地理」や「未来に向けて」などの発展的な学習に取り入れられており、よりよい社会をめざすための学びという観点が非常に良いなと感じました。

日本文教につきましては、「学習課題」、「見方・考え方」、「確認」、「表現」という項目がそれぞれのページにおいて設定されており、導入、発展、まとめといった流れが大変分かりやすいと思いました。

八木下教育長： 帝国書院は、127 ページや 181 ページ等で思考ツールについて活用例とともに詳しく紹介されていました。思考ツールを上手に活用できれば、考えをまとめたり、深めたりすることにも大変有効かなと感じました。

満永委員： さらに帝国書院がおもしろいと感じたのは、高橋委員がおっしゃられました「アクティブ地理」です。章のはじめに地理的な見方や考え方が明確に示されており、学習内容を提示して意識できるような工夫もされていると感じました。また、高橋委員もおっしゃっていた日本文教と同様ですが、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という学習の流れが分かりやすく示されているので、帝国書院が門真市の子どもにとってもいいのではないかと思います。

八木下教育長： 高橋委員はいかがでしょう。

高橋委員： 先ほど申し上げたように、帝国書院の、学びを自分たちの社会につなげるという視点が非常に良いのではないかと感じていますので、帝国書院がいいと思います。

八木下教育長： それでは、社会の地理的分野につきましては、帝国書院ということによろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、社会の地理的分野につきましては、帝国書院を採択いたします。

続きまして、社会（歴史的分野）の審議をいたします。歴史は、8社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、QRコードのデジタルコンテンツが豊富であると感じました。動画や資料、思考ツール等があり、生徒自らが学習内容を深められるように工夫されているなと思いました。

教育出版につきましては、20ページ、21ページなど、各章の導入ページに大きな資料が用意されており、生徒自身が学習課題を考えることができるような内容になっていて良いと思いました。

満永委員： 学んでいくときに、どの教科書にも下や右横に年表が付いていて、今どこを学んでいるのかを年表を見ながら進めていくのですが、どの社もわかるようになってはいますが、日本文教と帝国書院は、教科書の右側にあり、右側にあることで今どこを学んでいるのかがすごくわかりやすいと感じました。時代の流れや学習している時代が一目で分かるようなつくりになっていて非常に見やすいなと感じました。

それから、折り込みの年表がそれぞれ付いていますが、帝国書院と日本文教は、日本の歩みと世界の歩みだけでなく、その両者の関係や交流について記されていて、時代ごとに括って、我々の日本と世界がどのように交流していたのか学んだのか、あるいは

伝えてきたのか、そういった学習の繋がりが非常に分かりやすい年表になっていると思いました。とりわけ、この帝国書院のサブタイトル「日本の歩みと世界とともに」で、日本は単独で存在しているのではなく世界と関連しているということとサブタイトルの歩みを意識して書かれているのでその二面と妙に合致しているなと感じました。

山川出版については、32ページや33ページなどにある中国の記録に日本列島、いわゆる邪馬台国の魏志倭人伝等が詳しく書かれています。そういった意味で「歴史へのアプローチ」という特集では発展的な内容が学べて、58ページや59ページでは、「地域からのアプローチ」、地理的な学びの分野と連動しながら教科横断的に学ぶことができる工夫がされていると感じました。

高橋委員： 自由社につきましては、64 ページから 68 ページ等の各章末に「調べ学習」、「復習問題」、「時代の特徴を考える」、「対話とまとめ図」のページがあり、探究的な学習につながる工夫がされているなと感じました。

育鵬社は、32ページ、33ページなどにある「歴史ズームイン」の特集で学習内容について深めたり、他の視点から考えたりする工夫がされているなと感じました。

八木下教育長： 令和書籍については、情報量が非常に豊富で、他の教科書にはない内容や資料が多く取り扱われていたように思います。また、どのページにも欄外に補足説明がたくさんあって、生徒の自主的な学びにも活用できるのではないかと思います。

先ほど、年表の見やすさが特長として挙げられていた帝国書院については、73 ページや 101 ページなどのコラムがすごく豊富で、学習内容をさらに深め、さまざまな視点で歴史をとらえることができるように工夫されているなと感じました。

満永委員： 帝国書院で良いと思ったのが、36 ページ、37 ページなどのタイムトラベルのページで、時代考証に基づき、非常に細かいところまで描かれているように思いました。その時代について、生徒に興味を持たせたり、1 枚の絵や写真からいろいろなことを発見させたりと効果的に活用できるように感じました。また、アルファベットと数字の座標軸が設けられており、生徒が説明しやすい

よう配慮されているところもいいと思いました。

高橋委員： 日本文教ですが、58 ページ、59 ページの「歴史を掘り下げる」ページでは、地理や公民の内容につながる内容で教科横断的な視点も踏まえて学習できるように考えられているのが良いと思いました。

帝国書院にも地図資料が多く、歴史学習の中でも地理的な見方・考え方を働かせる工夫が多く見られ、教科横断的な学びにつながるつくりになっていると思いました。

八木下教育長： 評価項目についても、4 番、5 番を含めて、4 つの項目において評価されているというところと、全体的に帝国書院についてのご意見が多く挙げられていたというところから、歴史につきましては帝国書院ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、社会の歴史的分野につきましては、帝国書院を採択いたします。

続いて、社会（公民的分野）の審議をいたします。公民は、6 社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

高橋委員： まず、東京書籍につきましては、他教科でも同様ありましたが、やはり QR コンテンツが豊富ですね。あとは 33 ページや 71 ページなどにありますように、各章ごとに探究課題が設定されていて、生徒たち自身で学びを深められる工夫がされているように感じました。

次に教育出版につきましては、10 ページ、11 ページに思考ツールやプレゼンの方法が記載されており、各章の終わりに思考ツールを使ったまとめをしていたり思考ツールに関する内容が充実しているように感じました。

満永委員： 日本文教についてですが、巻末で他教科とのつながりについてまとめてあったり、各ページの下部に地理や歴史との関連が記載されていたりして、教科横断的な視点において優れていると感じ

ました。

帝国書院については、例えば 30 ページ、31 ページにイラストがありますが、先ほどの歴史でも言いましたが、こちらでもアルファベットと数字の座標軸が設けられており、やはり、こういった 1 枚の写真からしっかり色々考えさせて学びに入っていくと、子どもたちの興味・関心を喚起する上でも有効なのかなという感じがしますし、歴史との関連という点でも学びやすいかなと思います。

八木下教育長： 自由社は、13 ページや 73 ページにあるようにミニ知識がいろいろ掲載されており、生徒の興味関心を引いたり、学習を深めたりするのに役立つと感じました。

育鵬社については、13 ページにある「学習を深めよう」や 36 ページなどに「学習のまとめ」等があって、学習の定着を図ることができると感じました。また、他の教科書にはない特徴として、地理と歴史と公民の概念図が記されていたと思います。

満永委員： 地理と歴史と公民は、3 年間学びます。公民の学習を終えた生徒でこれから高校生あるいは社会へ出る生徒もいます。帝国書院は、最後に 3 年間の学びにふれてのメッセージが書いてあります。そういうメッセージを最後に載せてくれているのがいいなと感じました。24 ページにもありますが、「学習を振り返ろう」というところも、論理的思考を育むために良いのではないかと思います。なおかつ地理・歴史共に帝国書院が採択されましたので、つながりや学びやすさという観点からも、帝国書院が良いのではないかと考えますがいかがでしょうか。

高橋委員： 組織や配列の学びやすさという観点から、私も統一されている方がよいように思います。さまざまな表やグラフ、資料等も見やすいのではないのでしょうか。

八木下教育長： それでは、評価項目の多さや生徒の学びやすさという点、さらには 5 番の補充的な学習・発展的な学習の評価項目においても帝国書院のみが挙げられているというところからも、社会の公民的分野につきましては帝国書院ということによろしいのでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、社会の公民的分野につきましては、帝国書院を採択いたします。

続いて地図の審議をいたします。地図は、2社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

満永委員： いずれも甲乙つけがたいです。どちらも、中学生でも興味を持てるような良い地図になっていると思いました。

まず、東京書籍については、地図帳を深く読み取るヒントとなる問いで、「Bee's eye」が1見開きに1問以上掲載されており、生徒が興味を持ちながら、思考力や判断力、表現力等を養うような工夫がされています。また、二次元コードでその解答例もあり、生徒自ら確認ができるように作られています。

帝国書院については、巻頭に地図帳の凡例やQRコンテンツの活用方法、小学校からの振り返りが掲載されており、生徒が学びの見通しをもちやすいように工夫されていると感じました。先ほどの東京書籍の「Bee's eye」と同じような問い「地図で発見！」があり、より学習を深められるようになっています。

高橋委員： 帝国書院と東京書籍の違いで言いますと、帝国書院はページ数のところが色分けされておりまして、世界や日本の統計資料のページが一目で分かりやすいです。また、巻末の索引のページについても帝国書院の方が、文字が太字で大きいので見やすいように感じました。

八木下教育長： ページ数を見ても東京書籍は176ページで、帝国書院は198ページになっていて、情報量が非常に豊富で、より詳しい内容になっていると思いました。また、帝国書院は、裏表紙にもQRコードを使って教科書の内容に関連するコンテンツを利用することができるようになっていました。

満永委員： 私も二人の意見に同感です。あと、評価項目においても全ての項目が評価されているというところもありますし、これからの学びに活かしやすい教科書になっていると思います。そういった意味でも総合的に判断すると、私は、帝国書院が良いと感じますが

いかがでしょうか。

八木下教育長： 高橋委員いかがでしょうか。

高橋委員： 帝国書院がいいように思います。

八木下教育長： それでは、地図につきましては、帝国書院を採択いたします。
続きまして、数学の審議をいたします。数学は、7社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、3年生の162ページ、163ページに「数学×仕事」のコーナーで、数学に関連した仕事をしている人の紹介がされており、実社会とのつながりをとおして学ぶ意義を実感できるように工夫されていると感じました。

大日本図書につきましては、2年生の218ページから227ページのように、補充問題が豊富で授業での問題演習が終わった生徒も、自分のペースで問題を追加で解くことができていると感じました。

学校図書につきましては、3年生の44ページから46ページのように、単元の中で「次の課題へ！」が設定されており、学んだ内容を活かしたり発展させたりする活用問題が多く設定されているように感じました。

満永委員： 教育出版につきましては、巻頭に学習内容や数学的な見方・考え方などが見やすく記載されており、生徒が学びの見通しを持ちやすいように工夫されていると感じました。

啓林館につきましては、例えば2年生の90ページに「説明しよう」というコーナーがあります。同じく2年生の97ページの「話しあおう」など、今、必要とされている言語活動等が充実していて、主体的・対話的な学びが実現できるようなつくりになっているように感じました。

数研出版については、1年生の巻末の終わりに「数学旅行」として、SDGsや仕事に活かすことと関連づけた発展的な学習が記載されており、数学と実社会のつながりを実感できる内容になっていて、どの社もそういう配慮はしておられますが、とりわけ数学旅行がそういう学ぶ意義を実感できるように真剣に工夫さ

れていると感じました。

高橋委員： 最後の、日本文教については、全学年の巻末に各単元の振り返りシートが付録されており、書き込んだものをそのままノートに貼れるので、非常に活用しやすそうだと感じました。

数研出版の教科書のタイトルが、「日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせるこれからの数学」で、巻頭の見開きには「数学の学習を通して、みなさんが困難に立ち向かえる人になってくれることを期待して」というようなメッセージもあり、将来の生きる力を見通した内容になっているように思います。また、QRコンテンツも非常に豊富で、生徒たちの自主的な学習にも活用できそうだと思います。

八木下教育長： 東京書籍の巻頭にある「大切にしたい数学の学び方」で、どのような視点で話し合ったり、どのように学びを深めたりするかが、分かりやすく記されていると感じました。

数研出版は、1年生の121ページや189ページのように、各章の学習の前に「ふりかえり」というコーナーがあり、確認しておきたい既習内容をふりかえることができ、学びのつながりを意識しやすいような工夫がされていると思いました。また、教科書に登場する生徒の問いやセリフが対話形式になっているのも数研出版の特徴だと思います。

満永委員： さらに、数研出版で言いますと、1年生の170ページの宝の地図と巻末資料の「たこ形マーカー」を使って、3つの宝を探しながら学べるというような工夫がされておもしろいなと思いました。

八木下教育長： 学び方の工夫ですね。総合的に判断すると、数研出版がいいように思いますがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、それでは数学につきましては、数研出版を採択いたします。

続きまして、理科の審議をいたします。理科は、5社出ており

ます。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、3年生の129ページや143ページのように学習につながる内容や考えを写真から考えさせるように工夫されていると思います。また、「Before&After」として、QRコードのワークシートから学習を通して、どのように考えや理解が深まったかをふりかえることができるようになっていました。

大日本図書につきましては、単元末に内容がわかりやすくまとめられており、学習内容の確認と定着に効果があると感じました。また、2年生の76ページから79ページにあるような単元末問題と読解力問題を通して思考をさらに深めることができるようになっていたのも良いと感じました。

満永委員： 学校図書については、各単元はじめの見開きの2ページに大きく写真が出てきます。これはすごくインパクトがあり、生徒の興味を引きながら学習内容とのつながりやSDGsとの関連が示されていて良いと感じました。

教育出版ですが、全学年の巻頭に科学的に探究する意義や探究的な学習の進め方などが示されていて、探究学習についてかなり詳しく書かれていたと思います。

同じく、東京書籍と啓林館も、巻頭で「探究」について、その意義や学び方等について書かれています。甲乙付けがたいなところがあります。

八木下教育長： 啓林館の特徴でいうと、探究的な学習を進める中でICTをどのように活用すればいいのかが分かりやすく書かれています。ICTの活用は、生徒が個別最適、協働的に学習を進めていくうえで必要不可欠なものになっているので、それが詳しく具体的に書かれているというのはこれからの学びに重要なことだと思います。

高橋委員： さらに啓林館で言いますと、各単元に設定された探究実験に対応した「探Qシート」が巻末にありまして、自ら立てた課題や仮説、計画などを自分の言葉で書き込むことができ、非常に活用しやすい内容になっているかなと感じました。門真市がめざしている「探究的な学び」に活かせるのではないのでしょうか。

満永委員： 同じく啓林館ですが、化学コラムの部分がおもしろいと思いました。化学コラムは、「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災減災ラボ」、「深めるラボ」の5つがあり、例えば1年生であれば、「部活ラボ」は凍らせたスポーツ飲料、「お料理ラボ」は塩分の取り過ぎにご注意をと書いてあり、「お仕事ラボ」は石油からガソリンを取り出す方法、「防災減災ラボ」はガス警報器、「深めるラボ」は虹と太陽の光について書かれており、この化学コラムのラボがすごく子どもたちに良いのではないかと思います。「発展」のマークがある内容については、発展的に学習を広げられるように、学習指導要領に示されていない内容も取り上げられていて、生徒の理科に対する興味・関心をより高めることに有効であると感じました。

高橋委員： 評価項目についても、4番、5番を含めて4つの項目において評価されていますね。

八木下教育長： それでは、探究的な学習と発展的な学習という観点、また評価項目から啓林館がいいように思いますがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、理科につきましては、啓林館を採択いたします。

続いて音楽（一般）の審議をいたします。音楽の一般は、2社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

満永委員： 教育出版については、1年生 27 ページに歌唱教材の二次元コードで目標に沿ったワークシートがつけられており、曲の特徴等についてまとめやすいよう工夫されていると感じました。

教育芸術社につきましては、全学年の8～9ページに分野ごとの学習指導要領の観点に基づいた目標と内容が分かりやすく記載されていて、楽曲とも結び付けて確認できる点が良いと感じました。

高橋委員： 教育出版につきましては、1年生の48ページ、49ページに魔王の曲の説明が挿絵もあって分かりやすく、その曲について深く興味がもてるように工夫されていると感じました。

教育芸術社につきましては、2・3年上の52ページや60ページに、ミュージカルの紹介や歌舞伎の説明がイラストとともに非常に分かりやすく書かれており、生徒の興味を引く内容になっていると感じました。

八木下教育長： 教育芸術社については、2・3年上の22ページ、23ページなどにある、「学びのコンパス」で、表現方法のポイント等についても掲載しており、より理解を深めることにつながると感じました。QRコードを見ても教育芸術社のほうが多くて、生徒が自ら学習を進めるうえで活用しやすいようにも感じました。

満永委員： 二次元コードの数を見ても教育芸術社が多いように感じました。生活や社会の中での音や音楽について、両社ともふれていましたが、教育芸術社のほうの言及がより多いと感じました。教育芸術社が良いのではないかと思います。

八木下教育長： 高橋委員はいかがでしょう。

高橋委員： 異議なし。

八木下教育長： それでは、音楽（一般）につきましては、教育芸術社を採択いたします。

続きまして、音楽（器楽）の審議をいたします。音楽の器楽は、2社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 教育出版につきましては、8ページから13ページを見ると、ソプラノリコーダー・アルトリコーダーの楽譜が載っており、小学校の復習から始められるうえに、アルト・ソプラノの違いも理解しやすいように工夫されていると感じました。

教育芸術社につきましては、26ページ、27ページにあるギターの学習において様々なジャンルのギターが紹介されており、その違いなどを比較しながら学習できる点が良いと感じました。

満永委員： 教育出版ですが、56 ページ、57 ページに「弾く楽器の仲間たち」が見開きで載っており、世界のさまざまな弾く楽器について、興味を持って調べたり考えたりできるよう工夫されていて、SDGs の観点等が書いており、より良いと思いました。

教育芸術社では、見開きに 1 つの二次元コードが載っており、演奏家の情報や演奏で必要な技術の見本・伴奏がすぐに見られるようになっていて、生徒が自ら学んだり練習を重ねたりしやすいように工夫されていると思いました。

八木下教育長： 満永委員からお話があった教育芸術社の自ら学習を進めたり練習したりできるというのは、これからの学びに向けて非常に重要な点だと思います。教育芸術社の 13 ページの、リコーダーにおける姿勢やタンギングについても動画でわかりやすく示されている点やQRコードから伴奏付きで練習ができるよう工夫されている点も、生徒の主体的な学びとICT機器の活用において良いと感じました。

先ほど、音楽（一般）を採択しましたが、この関連やつながり等には配慮しなくてもよいのでしょうか。

満永委員： そこは、やはり非常に繋がっていて配慮すべきだと思います。発行者を統一しておいたほうが生徒も学びやすいですし、なにより教員が教えやすいように思います。比較においても、二次元コードなどは教育芸術社のほうが明らかに多かったということもありますし、同じ発行者の教育芸術社がいいのではないのかと私は思います。

高橋委員： 同意見です。

八木下教育長： 私も別の発行者よりも統一しておいたほうが良いように思いますし、生徒の主体的な学びに活かせるという観点から音楽も器楽も教育芸術社が良いと思います。いかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： それでは、異議なしということで、音楽（器楽）につきまして

も、教育芸術社を採択いたします。

続きまして、美術の審議をいたします。美術は、3社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 開隆堂については、例えば1年生の8ページ、9ページを見ますと、身近なものと美術のつながりについて、生徒が興味・関心を持ちやすいようにアニメや漫画の題材から導入されているところが工夫されていると感じました。

光村図書につきましては、別冊資料で基本的な絵の描き方や技法、書体などの様々な美術の基礎がまとめられていてとても授業で活用しやすいように思います。

日本文教の2・3年上の49ページには、バスケットボール用車いすや陸上競技用義足のデザインが、障害などによる課題を解決することをとおして、美術の力が暮らしを豊かにするということがよくわかる内容で良いと感じました。

満永委員： 開隆堂については、二次元コードの内容が充実しており、動画による説明や生徒作品、アイデアシート、鑑賞シート、振り返りシートなど多数の資料があり、生徒が自ら調べたり、学習を進めたりするうえで大変使いやすいと感じました。

光村図書につきましては、美術史の年表が分かりやすくまとめられているだけでなく、用語について二次元コードから確認できるようになっていて、配慮されていると感じました。

日本文教は、1年生の26ページから29ページの屏風の仕掛けが実際に感じ取れるよう、折り込みページで実際に折ることができるように工夫されていて、屏風の構図を伝えるうえで工夫されていると感じました。

八木下教育長： 開隆堂については、表紙の質感が他社とは違っていて、生徒が教科書を手に取っただけで、美術に対する興味・関心を高めることができるように感じました。裏表紙も文字がゴッホの「ひまわり」の絵のツボの形になっていたり、グエル公園のドラゴンの噴水の形になっていたりという仕掛けが大変面白いと思いました。

高橋委員： 美術においては、作品を見た時のそういった感動は非常に大切になると思いますし、裏表紙でいうと光村図書も、バーコード部

分に鳥獣戯画の動物があしらわれていて面白いと思いました。

満永委員： 私も、この表紙は触ったときにすごいと思いました。表紙だけではなく、開隆堂の2・3年生の最後に、これから巣立っていく生徒たちに向けたメッセージがあり、ここに「美術は人を寛容にする」という良い言葉が書いてあります。イリヤ&エミリア・カバコフ夫妻というロシアの有名な方の言葉で、国や文化の違い、宗教の違いに関わらず未来をつくろうということを教えているというふうに書いてあり、要するに美術は言葉がなくても共感し合える世界共通の言語であり、国や文化・宗教が違って美術を通して私たちは世界をよりよい方向へと変えることができると、今まさにこういう時代に必要なメッセージが書いてあるなと感じました。何度も言いますが「美術は人を寛容にする」という言葉がいいなという気がしました。

八木下教育長： 別冊の資料がある光村図書や、義足のデザインが載っていた日本文教もそれぞれ良かったなと思いますが、表紙や巻末のメッセージなど開隆堂はかなりインパクトがあるように感じました。

評価項目について、唯一日本文教が4番・5番を含めて4つ挙げられていますが、このあたりについてはいかがでしょうか。

満永委員： 確かに評価項目においては、日本文教の方が多く挙げられていますが、特に4番の学び方の工夫と5番の発展学習について、とりわけ門真の子どもたちのこれからの、我々が目指していく学びに即しているのかというところを重視して見るとするならば、開隆堂も4番・5番の項目においては、項目は評価されていますし、選定資料の4番・5番に関わる所見の数で見ると開隆堂は日本文教と同じ数だけ挙げられています。組織・配列及び人権の取扱いの項目においても、開隆堂の教科書はしっかりと配慮されたつくりになっていると思います。先ほどの、「美術は人を寛容にする」という部分は、まさしく人権あるいはSDGsですね。そういった部分でも開隆堂は、評価項目もそうですがしっかりと配慮されたつくりになっていると思いました。

高橋委員： それ以上に先ほどご意見として挙げられていた表紙や巻末のメッセージなどが、子どもたちが美術という教科を学ぶ上では大変

重要であるように感じますし、門真市の子どもたちにとっても、興味を持って学習できる教科書になっているのではないかと思います。

八木下教育長： そうしましたら、総合的に判断した結果、美術におきましては開隆堂ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、美術につきましては、開隆堂を採択いたします。

続きまして、保健体育の審議をいたします。保健体育は、4社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

満永委員： まず、東京書籍についてですが、教科書の構成でいうとページ左側に文章、右側に関連資料といった構成で作られているので非常に見やすいと感じました。また、巻末にあるスキルブックでは心肺蘇生法から手洗いの方法まで健康や安全に関する20のスキルがまとめられていて、活用しやすいのではないかと感じました。教科書のページ構成でいうと、大日本図書は見開き左のページに文章、右のページに関連資料やグラフなどを載せていて、こちらも見やすかったです。さらに、ページ下部にミニ知識が記載されており、こちらが結構おもしろくて生徒の興味をひき発展的な学習につながったりするような工夫がされていて良いと感じました。

高橋委員： 大修館書店につきましては、巻頭にある書家の金澤翔子さんが書いた「共に生きる」というメッセージが印象的でした。また、章末に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づいた学習のまとめもありまして、学習内容の確認や定着に大変有効ではないかと感じました。

学研については、1時間の学習の前に必ずウォームアップとして課題を発見させ、最後には学びの活用について考えさせる流れがあり、学習したことを日常生活へつなげていくための工夫がされていると思いました。

八木下教育長： 生徒に身近なスマートフォンに関する内容については、大日本図書だけが取り上げていまして、口絵の 13 ページ、14 ページのところで、「私たちの生活とスマートフォン」において SNS の正しい使い方や健康への影響などについて触れられていました。

学研の各章末に、「探究しようよ！」というページがあり、これは門真市がめざす学びに合っているように感じました。また、学んだことを実生活につなげて考えさせる内容にもなっていて、とても効果的だと思います。また、各ページの下の部分に情報サブリ、探究、リンクなどの欄があり、発展的な学習につながるようなヒントが書かれているのも生徒の主体的な学びにつながるのではないかと感じました。

満永委員： 私も教育長と同じで、ページの下部に載せてあるリンクする部分がバラエティーに富んでいると思います。

学研のほうは巻末に、「保健体育の学習の終わりに」として、共に健康に生きる社会や未来のために、自分自身にできることは何かということを考えさせるようなページがあり、保健体育の学びについても結局は共に健康に生きる社会、未来のために大事だと、先ほど美術でも言いましたが、そういった観点がしっかりまとめられていると思いました。

八木下教育長： ご意見をまとめますと、学習したことを自分たちの生活や社会につなげるという観点や探究的な学習という観点から、学研がよいように思いますがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、保健体育につきましては、学研を採択いたします。

続きまして、技術家庭（技術分野）の審議をいたします。技術家庭（技術分野）は、3 社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

満永委員： 東京書籍の、86 ページ、87 ページにある編末資料「すごいぞ！技術」ですが、生徒の興味を引くコラムが取り扱われており、技

術と実社会とのつながりについてより理解を深めることができる資料になっていると思います。あと、見開き全ページ右上に二次元コードがついており、そういった意味でＩＣＴ機器の活用や考えをより深めたり、探究したりできるような工夫がされているという感じがしました。

高橋委員： 教育図書の別冊資料は、実習等に必要な技術を参照することができ、とても使いやすい資料だと感じました。さらに、８ページ、９ページに問題解決の流れが示されており、解決策を考えていくうえでのポイントが分かりやすい説明になっていると感じました。

八木下教育長： 開隆堂について、ページの下にある豆知識を読んでいると、他教科での学びや既習事項などと関連付けられていて、生徒の興味をひきやすいのではないかと感じました。巻頭の見開きに、アニメに出てくるひみつ道具が技術の進歩により実現していることを示すページがあり、こちらも生徒の興味をひくような内容になっていると思いました。どの教科書もそれぞれ良さがあると思います。

高橋委員： ひとつ面白いと思ったのが、東京書籍の１６ページから１９ページの「技術の見方・考え方」で、ページの真ん中を丸くくり抜いて、社会からの要求・安全性・環境への負荷・経済性という４つの視点から解決策を最適化していくというところが非常に分かりやすく示されていると感じました。

満永委員： ＬＥＤ電球のところですね。ＬＥＤ電球のところからいろいろなことが考えられており、すごく工夫されていると感じました。学び方の工夫というところかというと、東京書籍の６ページ、７ページに技術分野の学習方法として、個別・協働な学習の流れ、探究のプロセスやＩＣＴや思考ツールの活用などがあり、生徒主体の授業につなげるための方法が分かりやすく示されていると感じました。ページの下の方には「技術は工夫」と書いているコーナー、右ページには「まとめよう」があり、細かいところが効果的だと思いました。こういったことが、これから門真市がめざす学びと大きく資するものではないかと思います。

八木下教育長： 確かにそうですね。評価項目においても、東京書籍は4番・5番を含め4つの評価項目があげられていますし、皆さんのご意見を聞いていると、生徒の興味・関心をひく工夫や学び方の工夫といった観点から、東京書籍がいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： 異議なしということで、技術家庭（技術分野）につきましては、東京書籍を採択いたします。

続いて、技術家庭（家庭分野）の審議をいたします。技術家庭（家庭分野）は、3社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、技術分野同様、見開き全ページ右上にQRコードがついていました。あと、10ページ、11ページにあるように、教科書全体を通して、よりよい生活や未来をつくるために学習を進めて生活に活かすことを見通した内容になっていると感じました。

満永委員： 教育図書について、17ページの「考えてみよう」、自分にとっての家族、家庭はどのような存在か考えてみようといったことが載っており、27ページの「体験してみよう」は、生徒たちが主体的に学びや思考を促すような内容になっていると感じました。先輩に聞こうという6人の先輩が出てくるところもありました。

開隆堂で特徴的だったのは、304ページ、305ページの世界の生活文化について学ぶことができるページで、発展的な学習として生徒の興味をひく内容になっていると感じました。教科書の下左側に「豆知識」、右ページに「チェック」もあり、これもなかなか使えるなという気がしました。

八木下教育長： 衣服の取り扱い表示については、どの教科書にも掲載されていますが、東京書籍だけは、繊維の種類や性質と合わせて見開きで、132ページ、133ページにまとめられていてすごく見やすいように感じました。

満永委員：　そうですね。同じく東京書籍につきましては、先程の技術分野と同じく、学び方の工夫というところでは、4ページから7ページに学習方法として、個別・協働学習の流れや探究のプロセス、デジタルコンテンツや思考ツールの活用などがあり、生徒主体の授業につなげるための方法が分かりやすく示されていますし、二次元コードの数を見ても一番多いです。

高橋委員：　評価項目におきましても、東京書籍は、4番、5番を含めて4つ挙げられていますし、それに関わる所見についても非常に多く挙げられているので、東京書籍がよいように感じます。

八木下教育長：　それでは、家庭生活に活かすことを見通した内容になっているという観点と学び方の工夫という観点から、家庭分野についても東京書籍がよいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

全委員：　異議なし。

八木下教育長：　異議なしということで、技術家庭（家庭分野）につきましても、東京書籍を採択いたします。

続きまして、英語の審議をいたします。英語は、6社出ております。それでは、ご意見のほどよろしくお願いいたします。

高橋委員：　まず、東京書籍についてですが、やはりQRコードが豊富で、一人ひとりにあった学びができるようになっていところが生徒の自主学習力を育むのではないかと思います。デジタル教材におきましても、ストーリー性豊かな動画や楽しく学べる解説動画など、生徒が自発的に学びたくなるコンテンツが充実しています。

デジタル教材で言えば、開隆堂も、AIによるスピーキング評価機能などがありまして、個別最適な学びについても配慮されていると感じました。

満永委員：　三省堂で、おもしろいなと思ったのが Bollywood view movie つまりインドのムンバイを中心として作られているインド映画や日本のアニメの教材など内容が豊富で、生徒がすごく興味を持ちやすいのではないかと思います。また、1年生のレッスン1～

4では、小学校との接続が丁寧に行われており、小中の学びの継続もしやすくなっているように思いました。

教育出版についても、3年生 112 ページの「Further Reading」の読みものの語数が段階的に増加するように構成されており、発展的な活動にもつなげられているのが良いと思いました。

八木下教育長： 小中の学びの連続性で言えば、光村図書も1年生の 18 ページから 24 ページのところで、母音・子音の発音、唇や舌の動きなど、小学校で学習したことを確認しながら中学校の学習につながるよう工夫されていますし、デジタルコンテンツにおいても、コミュニケーションの目的・場面・状況を理解しやすいように、音声だけでなく、実写ドラマ映像やピクチャーカードを並べかえる教材など、工夫されていると感じました。

啓林館の2年生のUnit 8のところで、「フードダイバーシティ（食の多様性）」の学習の中で、世界の食文化やハラル認証マークにも触れられているところが特徴的だと感じました。また、そこから自分たちの住む地域や日本の食べ物を紹介しようという発展的かつ探究的な学習につながっているところが優れていると思いました。

満永委員： 学び方に関して言えば、東京書籍は、教科書全体で協働して問題解決を行う活動やグループにおける発表活動など、主体的で対話的な学びが準備されている点がとてもいいと感じました。また、「学び方コーナー」では、英語学習のポイントやコツを系統的に取り上げ、生徒の主体的な学習態度を育成するという点にまで触れています。これもすごく良いなと思いました。

高橋委員： 私も、東京書籍の3年生、42 ページから 45 ページなどの複数の単元を学習後に取り組む、「Stage Activity」など、それまでに学んだ様々な技能・領域を活用しながら取り組む工夫が、門真の子どもたちの活用力を育むのではないかと思います。

八木下教育長： 様々なご意見ありがとうございます。評価項目につきましても、東京書籍のみ4番と5番が共に挙げられていました。

そうしましたら、内容やデジタルコンテンツの充実、学び方や構成の工夫などからも東京書籍がいいのではないかと思います。

が、いかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： それでは、英語につきましては、東京書籍を採択いたします。
続きまして、道德の審議をいたします。道德は、7社出ております。それでは、ご意見のほどよろしく願いいたします。

満永委員： よろしいでしょうか。門真では特に生命の尊さ、命というところについて、道德だけではなく全ての教科でやっていかないといけないと思います。とりわけ、道德の教科書はそこを重視させていただきました。どこの社も、命についての内容は充実していましたが、例えば、東京書籍の2年生の教材に「奇跡の一週間」があり、これは、ある末期のがん患者が最後の一週間苦しんでいる中、一生懸命パソコンで絵を描き、それを看護師さんたちが絵本にしています。その患者さんは、結局は亡くなってしまいましたが、ある人が、「あの人死んでしまったのね」と言うと、それに対して、「死んだ命ではありません。あの人、死んでしまった人ではなく一生懸命生きた人です」と返しています。最後まで、非常に重い病気を抱えながらも一生懸命生き、なにかを残す。一生懸命に生きるということは、門真で特に大事にしてほしいところだと思います。どの社も、命についての内容は充実していますが、東京書籍がそういうことを書いています。

学研も命について充実していると思いました。ある助産師さんの立場から生と死について考えさせるという教材があり、こちらでも生徒が今の自分について考えることができるようになっていると感じました。

高橋委員： 教育出版は、全学年、巻末に補充教材が5つほどありまして、学んだことをより広げたり、深めたりできるように工夫されていてよいと思いました。

同じく、光村図書におきましても、全学年巻末に付録があり、小学校教材ともう一つ教材が収録されており、自身の成長を感じたり深めたりできるようになっているところがいいと思いました。

八木下教育長： 私は、日本文教で、巻頭の「道德科の授業をどのように学ぶの

か」が、ミニ教材と一緒に記載されていて生徒が学びやすいように工夫されているところが、自主的な学びにつながるのではないかと感じました。

また、あかつき教育図書については、全学年の最後の方の180ページから183ページに「Thinking」というコラムがあり、道徳科の学びとSDGsを関連付けて、学習できるように工夫されていると感じました。

高橋委員： 日本教科書につきましては、すべての教材に、①考えよう、②深めようなどの問いが書いており、生徒が考える手立てになるかなと思いました。巻末のウェルビーイングカードも工夫されていると思います。

先ほど出ていた、補充教材の充実や、生徒の学びやすさで言うと、東京書籍も全学年Plusという補助教材がありますし、巻頭に道徳科の学びや教科書の使い方についてわかりやすく記載されていて良いと思います。

満永委員： 東京書籍は、教材の数が最も多く、それにプラスして付録なども充実しており、内容も充実していると思いました。

八木下教育長： それぞれの教科書で良さはありますが、生徒の学びやすさ、そして教材の充実、特に、命を考える教材の充実というのは、門真の子どもたちにとって重要な要素だと思います。その観点から東京書籍が良いのではないかと思いますのですがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

八木下教育長： それでは、道徳につきましては、東京書籍を採択いたします。
以上をもって、本定例会に付議されました事件は、全て議了しましたので、松宮委員と澤田委員のご入室をお願いいたします。

[松宮委員 澤田委員 入室]

八木下教育長： では、両委員に、議案第21号は、原案のとおり可決し、議案第22号につきましては、
国語につきましては、光村図書、

書写につきましては、光村図書
社会（地理的分野）につきましては、帝国書院
社会（歴史的分野）につきましては、帝国書院
社会（公民的分野）につきましては、帝国書院
地図につきましては、帝国書院
数学につきましては、数研出版
理科につきましては、啓林館
音楽（一般）につきましては、教育芸術社
音楽（器楽）につきましては、教育芸術社
美術につきましては、開隆堂
保健体育につきましては、学研
技術家庭（技術分野）につきましては、東京書籍
技術家庭（家庭分野）につきましては、東京書籍
英語につきましては、東京書籍
道徳につきましては、東京書籍を採択したことを報告いたします。

以上をもって、本定例会に付議されました事件は、全て議了しましたので、会議を閉じ、令和6年門真市教育委員会第7回定例会を閉会いたします。

八木下教育長 閉会宣言 午後3時32分

門真市教育委員会会議規則第24条の規定により署名する。

門真市教育委員会

教 育 長 八木下 理香子

署名委員 高橋 元